

【6年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
国 語	<p>〈読むこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文学的な文章において、物語のあらましを捉えたり人物の行動の意味や心情について叙述を基に捉えたりすることは概ねできているが、主題を捉えることは十分にできているとはいえない。</li> <li>○説明的な文章においては、全体の構造を捉えることはできるようになってきたが、指示語の読み取り、語彙等に課題があることから、叙述を基に筆者の考えを捉えたり要旨を把握したりすることが十分にできていない。</li> <li>○語彙力や生活経験に差があり、言葉の意味を正しく理解したり、文章を読んで具体的な様子をイメージしたりすることが難しい児童もいる。</li> <li>○読書に意欲的、積極的に取り組む児童とそうでない児童の差が大きい。</li> </ul> <p>〈書くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まとまった量の文章を書くことへの苦手意識がある児童もいる。語彙力、表現力に個人差がある。</li> <li>○「はじめ・中・終わり」という構成で文章を書くことは概ねできているが、「中」の部分を中心に合わせて詳しくしたり、読み手を意識して自分の考えを適切に表現したりすることが十分にできていない。</li> <li>○書いた文章を、適切に読み返す習慣と技能が十分に身に付いていない。</li> </ul>	<p>〈読むこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読み解く力」の育成について計画的に指導を積み重ねる。特に「照応解析」（指示語の読み取り）、「イメージ同定」（図表や絵や写真等と文の関係から読み取る）「推論」（既習事項を根拠として、新しい知識を獲得する）については意図的・重点的に指導を積み重ねる。国語における学習を生かして他教科の授業でも意識的に指導する。</li> <li>○文学的文章の主題、説明的文章の要旨につながる構造や叙述の捉え方を具体的に指導し、学習を積み重ねる。</li> <li>○様々な読解の場面で、意味が曖昧だったり分からなかったりする言葉を辞書や ICT を活用して調べ、意味を正しく捉えられるようにする。</li> <li>○ポプラタイムと読書週間を活用し、読書に親しむ時間を確保する。読書の量や内容について、学校全体でのめあてを基に児童一人ひとりがめあてをもって読書に取り組めるようにする。「読書のあしあと」に、年間を通じて読了した本を記録させる。成増図書館と連携してブックトークを実施し、読書の楽しさに目を向けさせる。</li> </ul> <p>〈書くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○意見文や図書推薦文など文種に応じて、書く手順を明確にした指導を行うことで、書き表し方を身に付けさせるとともに、文章を書くことへの抵抗感を少なくしていく。</li> <li>○ポプラタイムの時間に視写の学習を積み重ねることで、書き慣れることや文章表現や語彙の拡充に取り組む。</li> <li>○読書の取り組みや、辞書や ICT の活用によって、語彙の拡充に取り組む。</li> <li>○主述の呼応、誤字、脱字等といった表記上の観点や目的に合った文章になっているか等、読み返す観点を明確に提示して、書いた文章を読み返し修正する活動を積み重ねる。</li> </ul>

	<p>〈話すこと・聞くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目的に応じて話題や内容を決めたり選んだりすることは概ねできている。話の構成を考えたり資料を適切に活用したりすることに課題がある。</li> <li>○話し手の目的や内容を捉え、聞き取ったことについて自分の考えと比較しながら、自分なりの意見や考えをまとめることが十分にできていない。</li> <li>○立場や意図を明確にしながらかし合うことに課題がある。</li> </ul> <p>〈漢字〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的な漢字練習にはしっかり取り組む児童が多く、漢字テストでは成果を上げる児童も多いが、漢字と熟語の組み合わせの力が十分ではない。既習の漢字を日常的に使う習慣が十分に身に付いていない傾向があり、定着度は個人差が大きい。</li> </ul>	<p>〈話すこと・聞くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書くことの学習と関連づけて、話の構成や意図を伝えるための資料の活用の仕方等を具体的に指導し、学習を積み重ねる。</li> <li>○相手の話を聞き、自分の考えと比較する観点や方法について具体的に指導し活動を積み重ねる。</li> <li>○話し手と自分の考えを比較した上で、話し手に対する意見の構築の仕方について具体的に指導し、活動を積み重ねる。</li> <li>○立場や意図を明確にした話合いの仕方について具体的に指導し活動を積み重ねる。</li> </ul> <p>〈漢字〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○読み替えの漢字の授業の際に既習事項を確認したり宿題を活用したりして繰り返し学習できるようにする。漢字単体だけでなく、熟語や短文での練習を積み重ね、使い方を身に付けられるようにする。</li> <li>○国語に限らず様々な場面で、既習の漢字を使って記述する指導をする。</li> </ul>
<p>社 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活と政治が結びついていない児童がいる。</li> <li>○日本の歴史に対して、興味や関心をもっている児童が多い。</li> <li>○年表などの資料と出来事を関連させて、総合的に読み取ることが十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の内容だけでなく板橋区の政治を取り扱い、どのような政治を行っていて、実生活に関わっているのか捉えさせる。</li> <li>○知識を覚えるのではなく、人物の考え方などを主体的に学習できる授業を行うことで、興味や関心が持続するようにする。</li> <li>○資料の読み取りを丁寧に指導するとともにその資料から時代背景を考えさせる機会を多く設ける。</li> <li>○読み取りの支援として、タブレット PC を介して資料を提示することで、個人で拡大等ができるようにする。</li> </ul>
<p>算 数</p>	<p>〈数と計算〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な四則計算の方法は理解できている児童が多い。正確さと計算にかかる時間の個人差が大きい。小数の加減では筆算の位のそろえ方に、乗法と除法では小数点の移動にそれぞれ課題がある。</li> <li>○計算のきまりについては、正しく覚え</li> </ul>	<p>〈数と計算〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○整数や小数・分数の四則計算は、筆算の仕方、小数点の移動、通分や約分等基本的事項を押さえて、正しく解くことができるようにミライシード等を活用して練習を積み重ねる。</li> <li>○計算のきまりの練習問題に、東京ベーシック</li> </ul>

	<p>て使うことが十分にできていない。</p> <p>〈図形〉</p> <p>○分度器・コンパスの使い方を忘れがちである。面積、体積は公式を理解し活用することはできるが、複合図形の求積の方法を筋道立てて考えることに課題がある。</p> <p>〈変化と関係〉</p> <p>○割合の理解や、伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて知りたい数量の大きさを求めるための立式や言葉の記述に課題がある児童が多い。</p> <p>〈データの活用〉</p> <p>○複数のグラフを組み合わせたグラフの読み取り、二次元表からのデータの読み取りに課題がある。</p> <p>○代表値の意味は理解しているが、活用するのは難しい。</p>	<p>ドリルを活用して計画的に取り組み、繰り返し復習できるようにする。</p> <p>〈図形〉</p> <p>○面積、体積については、既習の平面図形と立体図形の意味や性質、公式の使い方の指導を繰り返し行い身に付けさせると共に、様々な複合図形の求積問題については、補助線の活用等具体的な指導を積み重ねる。</p> <p>〈変化と関係〉</p> <p>○割合については、実生活の具体的な場面と対応させながら実感と共に身に付けられるように指導する。比例の学習では、伴って変わる2つの数量の関係に着目させるために、数直線を用いて関係を確認する方法を練習し、比例の関係から立式をして答えを求められるようにする。</p> <p>〈データの活用〉</p> <p>○社会科や理科、国語等での表がグラフの読み取り場面で、算数の既習事項を生かしたり復習したりする学習を意図的に積み重ねる。</p> <p>○学習した3つの代表値を使える場面を捉え、活用を促したり使い方を復習したりする。</p> <p>〈その他〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分で考え集団で検討していくような、問題解決型学習を多く取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決をしていく際には、既習事項を活用できるようノート作りを指導していく。自分の考えを図や表、式、数直線などを使って分かりやすく書けるようにしていく。</li> <li>・集団検討の場面では、自分の考えを表現したり、説明したりする活動を多く取り入れる。</li> </ul> </li> <li>2. 反復練習の時間の設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に、計算のきまりの確認をしたり面積の公式を使う図形問題を解いたりする時間を適宜設定する。</li> </ul> </li> <li>3. 家庭学習とポプラタイム(朝自習)の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシックドリルの活用：診断シート結果から、個々の課題を把握し、個に合った学習の取り組みを通して学習の定着を図っていく。</li> </ul> </li> </ol>
理 科	○見通しをもって実験、観察をする力が付いてきたが、結果と考察の違いがは	○結果（事実）と結論（考え）を区別した文型を示し、考察の基本的な書き方を指導する。

	<p>つきりと理解できず、より妥当な考えをつくり出す力がまだ十分に身に付いていない。</p> <p>○基本的な実験・観察の技能が十分に身に付いていない児童が存在する。</p> <p>○理科の実験や観察などには興味をもち取り組んでいる。</p>	<p>また、既習事項をもとに仮説を立てたり、いくつかの結果をもとに結論を導き出したりする際の話し合いを丁寧に指導し、推論する力を養う。</p> <p>○実験前に、道具の使い方や安全指導を確実に行う。危険度の高い活動では、必ず演示を行う。</p> <p>○興味や関心をさらに刺激するような体験や活動から問題づくりを行い、実験や考察など体験的な方法を多く取り入れることで、実感ある理解を導く。</p>
音 楽	<p>○難しい課題でも、最後まで努力を惜しまず完成に向けて努力している。</p> <p>○恥ずかしさから、思い切り声を出したり音を出したりできない児童が見られる。</p> <p>○友達と意見を出し合い、認め合って、自分たちの音楽を創りあげる活動に意欲的に取り組めるようになってきた。</p>	<p>○その都度頑張った点を褒めたり、更に意欲的に表現を高められるよう声掛けをしたりしていく。</p> <p>○スモールステップで課題に取り組めるよう、個の技能に応じた課題を用意するなどし、意欲を引き出せるよう指導を工夫する。</p> <p>○今後も、題材・教材に応じて、様々な形態の活動を適宜取り入れ、協働して学びを深められるようにする。</p>
図 工	<p>○自信のなさや、作品制作の道筋の立たなさから、主体的に学びに向かっていくことができない児童がいる。</p> <p>○知識・技能に大きな差のある児童がいる。</p> <p>○自由に考え、表現することができる児童が多い。決まり通りに作品を進めるのではなく、自分の意志で決定し、どんな作品にするか考えることが得意である。</p> <p>○振り返りの充実（ICTの活用）</p>	<p>○児童の実態を把握し、それぞれの児童に対して適切な支援を用意する。振り返りの時間を充実させ、学びへの筋道をもたせる。</p> <p>○教師が積極的に実演や支援、評価をするとともに児童が互いに支援し合える座席配置を工夫する。</p> <p>○材料や用具、技法を、数ある中から児童が自分の表したいイメージに合わせて選ぶことのできる環境を強化する。</p> <p>○振り返りの内容を蓄積し、児童が自他の意見から学びを価値付けられるようにするために、フォームで振り返りを提出、スプレッドシートで内容を確認できるようにする。</p>
体 育	<p>○体育全般に対して意欲的に取り組める児童が多い。</p>	<p>○苦手意識をもつ児童にも運動本来の楽しさや技能を獲得したときの達成感が味わえるように、資料提示によって運動の仕方についての理解を促し、用具や場を工夫し段階を踏んだ指導をする。児童同士の教え合いの授業を充実させる。</p>

	<p>○学習を振り返り、自己の課題を見つけて次の学習に活かしていくという学習の仕方が十分に身に付いていない。</p>	<p>○誰もが楽しめる運動の仕方やルールを工夫して、勝敗だけでなく、チームワークの大切さや良いプレーに注目し、認め合える態度を育てる。</p> <p>○ワークシートを活用して、自分のできているところと課題を明確にし、めあてをもって練習や運動に取り組めるようにする。</p> <p>○タブレットの動画撮影機能を活用し、自分の動きを確認させることで技能の向上を図る。</p>
家庭科	<p>○調理経験がある児童が多く、調理実習では円滑に授業を行うことができた。生活に必要な知識や技能を家庭生活から授業に生かすことができる。</p> <p>○生活に目を向けることができても、自分の考えを深めて、活動・実践していくことに結びつかない。</p>	<p>○実践的・体験的な授業を多く取り入れることで児童の意欲を高めさせる。学校生活の中でも活用できる場面を提示し、授業とのつながりを深める教材の工夫をする。</p> <p>○児童が家族の一員であり、生活者であると自覚できるよう、家族の中での自分の仕事を意識させ、毎日の生活を考えながら行動できるようにさせる。また、振り返る機会を設ける。</p>
道徳	<p>○登場人物の状況や気持ちを自分事として捉え、考えを書くことができる児童が多い。</p> <p>○自分の生活を振り返り、道徳的価値に照らし合わせて、できた経験、できなかった経験等を想起し、それについての考えを書くことは十分にできていない。</p>	<p>○登場人物の気持ちに沿って考え、道徳的価値に迫ることができる発問や学習活動を工夫すると共に、考えを十分に伝え合うことのできる学習形態を工夫し、児童同士の交流によって考えを深められるようにする。</p> <p>○毎時間の学習において、学習した道徳的価値についての自分の経験を振り返ったり友達の経験を聞いたりする学習活動を位置付け、積み重ねていく。</p>
総合的な学習の時間	<p>○収集した資料の中から必要な資料を選択できなかつたり、引用した文をそのまま載せるが、自分の考えを具体的に記述することができなかつたりする児童が多い。</p> <p>○課題解決能力の向上を図ることが課題である。</p>	<p>○各教科と関連付けて、資料収集力や資料を読み取る力を高め、取捨選択の仕方を学ばせる機会を多く設ける。また、多様な考えを認め、自分の考えを書く際に丁寧な指導をする。</p> <p>○課題を明確にさせ、その解決のためにはどうしたらいいのか見通しをもたせる指導を繰り返す。</p> <p>○環境をテーマとした探求的な学習に1、2学期を通して取り組む。</p>
外国語	<p>○外国語には興味・関心があり、意欲的に取り組むことができる児童が多いが、人前で英語を話すことには消極的な児童も見られる。</p>	<p>○授業の中で、英語に触れる機会、特に児童が英語を話す機会を増やす。授業中の指示についても、できるだけ英語を多く使用して英語に慣れ親しめるようにする。</p> <p>○一人一台端末を有効に活用し、一人一人が必</p>

<p>○アルファベットの大文字、小文字の形や名前が分かり、発音と書き方が身に付いている児童が多い。単語の綴りについては注意深く見て正しく視写することができる児童が多くなってきているが、書くことが苦手な児童もいる。</p> <p>○聞き慣れない単語や長いフレーズが聞き取れないことが、意欲の低下に繋がる様子が見られる。</p>	<p>要なフレーズや単語を使って正しく話す機会を保障する。</p> <p>○4本線を意識し文字の高さに気を付けながら書くことを指導し、正確に書けるようにする。</p> <p>○授業の中で、書く機会を増やし、書き慣れるようにする。</p> <p>○長いフレーズの場合は、ゆっくり読んだり短く区切って読んだり繰り返し読んだりするなどの工夫をする。</p> <p>○知っている単語や前後の文脈等を手掛かりとして、聞き取ることができたことから大体的な内容を捉えたり予想したりする方法を具体的に示し、活動を積み重ねる。</p>
--	--